

# 東京バツ八合唱団 月報

[第532号] 2006年10月号 <Web版>

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732  
E-mail : bachchortokyo@aol.com http : //www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.532

October 2006

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## 芸能の力 祝言と鎮魂

人間の普遍の真実をうたう

笠井 賢一 (能プロデューサー・演出家)

私はこの8月15日、故郷高知の「夏季大学」という催しで『芸能の力 祝言と鎮魂』という主題の講演をしました。その折に、政治の言説に対して芸能の言葉(広く歌、詩をふくめ)として与謝野晶子の「君死にたまふことなかれ」の詩の意味について話をしました。世がこぞって旅順陥落を願っている大勢の中で、詩の言葉は、人間の普遍の真実を歌うことで力を持つことになるのだと思います。音楽も演劇も同じです。

講演の要旨が掲載されました新聞を同封します、お読みいただければ幸いです。

今日は8月15日。夏季大学[高知市文化事業団主催]の講師をお受けする際、この日を選ばせていただいたのは、芸能というものが一人の人間の生死や生涯といったものと相交わらなければ、芸能としての本質的な力を持たない、との思いがあるからだ。

戦後60年の節目だった昨年、NHKであるドキュメンタリー番組が放送された。昭和20年3月10日の東京大空襲で夫と幼子を失った女性。彼女は戦後、施設で孤児たちを育てる仕事に携わった。カメラの前で、亡きわが子の着物を手に語る90歳の彼女の姿...本当に心に響いた。

子どもを失った母親の深い喪失感、そういう状況をつくり出してしまった時代を見つめ直すのは政治の言葉ではなく、芸能の力だと確信しているし、また、そうでなければ芸能の意味がない。

芸能の持つ本質とは、要約すれば「祝言」と「鎮魂」に尽きる。人間には必ず生の喜びがあり、そして死の悲しみがある。そのなかで人間は喜怒哀楽をもって生きていくそれがすべてであり、それを表現するために能は独特の表現力を培ってきた。

「鎮魂」は魂の癒しである。世阿弥の息子、元雅の傑作能「隅田川」にも描かれているように、子どもを失った女性の思いには普遍性がある。その悲しみの深さをどこまで表現できるか、そしてそのことによって魂を鎮め、癒しを与えるのが芸能の持つ大きな力ではないか。一方で、「祝言」とはめでたい、喜ぶべきこと。天下泰平・国土安穩を祈る翁、五穀豊穡をいのる三番叟 そういった強い祈りが、

悲しみを癒す力につながっていく。

「伊勢物語」を題材にした能「井筒」は、世阿弥の再来といわれた故・観世寿夫師が完成の域にまで高めたといい。旅の僧侶の前に、在原業平の元妻の亡霊が現れ、業平との過去を物語る。夫と愛し合った時間、苦しんだ時間...一人の女性の喜びも悲しみもすべて含み込んで、ただ静かに舞う。シンプルだが、その中に人間の一生の深さを表現し得ている。それが能の持つ力ではないか。寿夫師が昭和52年に夏期大学で講演した際にも、能の本質とはそういうことだと盛んに話をしている。

<親は刃(やいば)をにぎらせて/人を殺せとをしへしや/人を殺して死ねよとて/二十四までそだてしや>

与謝野晶子が日露戦争で出征した弟の無事を祈った詩「君死にたまふことなかれ」を発表した際、それを批判する者も数多くいた。本県[高知県]出身の大町桂月も晶子を乱臣賊子として非難したが、それに対して晶子は「歌詠みである以上は後世の人に笑われない、まことの心をうたいたい。まことの心をうたわれない歌に何の値打ちがあるだろう」と反論している。

世論がすべて戦争に傾いているときに、女性が「君死にたまふことなかれ」と率直に言える シンプルだが、そうした永遠の真実を言い得るのが芸能者の力であり、人間として大事なことだ。それを大切にできずに、誰もが大量にあらがえなくなったのが先の戦争であり、それを反省するのが8月15日ではないか。

本県出身の中江兆民は、癌宣告後に執筆した「一年有半」でこう書いている。自分は新聞を読んでも政治に興味を引かれることは何もない。ただ、命がもう少し続いて秋になり、文楽(人形浄瑠璃)を楽しんで静かにこの世にいとまを告げることが願いだ。同じ時代にこれだけ情深く人間の真実を表現し得る芸人と出会えた幸せを思えば、自分は不遇とはいえない と。

芸能の持っている力とはそういうものではないか。人がその魂を打つ表現に出会うことによって、自分の生を肯定することができる。そんな存在としての芸能の力をもっともって発揮していかなければ、と思う。

(『高知新聞』2006年8月17日。[ ]内は編集部で補筆)

## 世界の宗教、登山に譬えてみれば

大村 恵美子

この夏、箱根から富士山をゆっくり眺める機会があった。あんな高い山に、吉田口、須走口などと、いくつもの登山口ができていて、さまざまな方向から人々が登ってゆく。それと同じように、世界にあるいくつもの宗教が、それぞれ条件のちがう出発点から目指して、精進してゆけば、同一の到達点に達し、名称や表現はことなっても、ついには同一の真理を共有することになる、ということがあり得るのだろうか。山の頂上というのは、とても狭く切り立っている。それを確認するには、疑いをもつ余地はない。

しかし、宗教的真理は、そのように紛れもないものなのだろうか。世界宗教者会議があって、なんとか一致点と共存を得ようとして、継続的な努力を重ねているようであるが、果たしていつの日か、一致して認め得るような頂点で合流することがあるのだろうか。

そうしているうちに、ムハンマドの戯画化でヨーロッパとアラブ諸国で騒ぎが持ち上がり、またそれが収拾のつかないうちに、こともあろうにカトリック教の第一人者である教皇の穏やかならざる発言が伝わってきて、またまた一騒動となった。

人間は、どうしてこんなに愚かしい言動をくり返して、お互いに住みにくくしてしまうのだろうか。

### 差別の生じるところ

日常生活でも、他人と自分との比較に敏感で、なにかとお互いの差別にこだわるところに、紛糾が生じやすい。

宗教は、人間の内心のもっともまじめな部分に関わる事柄だけに、ひとと仲良くするためには、あまり関心を外に表わさず、それで満足していれば、他からとやかく言うことではない、と割り切って共存させるか、あるいは、そのように心掛けながらも、ときどき、前述したように、ちょっとしたはずみから社会的な激突が襲うことになる。それを解決しようと、徹底的にそれぞれの立場をつき合わせてみて、どこをどうすれば、普遍的な地平に達するのかを検証し、模索してみるのも必要ではないか。

話はかわるが、イラクで、かつて日本人数名が武装勢力の人質に囚われたとき、私ははじめてイラク人たちの心を垣間見ることができたような気がした。みんな同じではないだろうが、そのときの拉致実行者たちも、自分たちの奉ずる宗教指導者には素直で、指導者の意見と指令に従って結果的には日本人を釈放した。私はそのとき、いささか問題はあがあるが、武力の強さで解決されるのではなく、宗教指導者が政治的にも権威を示す、そういう世界が残っているのもありがたいものだと思った。宗教指導者が、これは正しい、殺すのはよくない、などと判断し、武装勢力までも

指導できるとすれば、これはこれでロゴスのパトスへの勝利ではないか。いきさつの真相は推測できなかったが、もし現在のイスラム教に、このような秩序が保たれているのだとすれば、国家間の紛争も、首脳の話し合いで未然に防げる可能性があるということだが……。

超大国の教会のように、他の諸派の意見は聞かず、抗議する牧師も牢にぶち込みながら、好戦的な一宗派のヘゲモニーで世界中を火の海にしまわるとは対照的である。

### イエスとキリスト教

私自身は、ろくに勉強してもいないが、まずいちばんお世話になったのはキリスト教なので、一例としてキリスト教の内情を考えてみたい。

イエスは神の子だったのか、どういう意味でそうだったのか、また他の宗教からはイエスがどのような者として見られているのか、それらの問題は全部おくとしよう。また各宗教の神は、みんなちがう神なのか。これが「登山」に喩えた私の本題ではあるが、私はいろいろ歴史的な枠を背負い込んだ「神」の比較を避けて、漠然としてはいるが、われわれ人間の探求の目標を「真理」と言っておこう。

今年、知人からいただいた『イエス 人と神と』（著者・上村静、発行・関東神学ゼミナール、2005年11月）という本を読んだ。その終わりの部分に、イエス自身と、その死以後に生まれたキリスト教会との関係が簡潔に記されており、分かりやすい（もっとも、反対意見の立場が現在では主力かと思われるが）。

著者によれば、「<義人>と<罪人>という表現は、主観的な価値判断に基づく強い自意識と他者へのレッテル貼りという性格を持つ」、「差別とはこの価値観の日常生活における現実化であると言える」（p.143,144）。

マルコ福音書2:17bでは、「私が来たのは義人たちではなく罪人たちを招くためだ」とイエスが言ったことになっている。しかし「この言葉はイエスの活動を総括するものであって、すでにイエスに遡るものとは考えがたい」（p.146）。「3福音書記者は、それぞれ<罪人>を赦し、憐れみ、悔い改めの<対象>とし、それによって自ら<義人>の立場に立っている。」「他者を類化・対象化し評価する態度の表れであって、他者との連帯を志向するものではない」（p.145）。

当時のパレスティナの差別の現実から、著者は、

「<罪人>：律法違反の境界線上にいと見なされ、それゆえに社会的に差別の対象として蔑まれている人びと。

<義人>：自らを積極的に<義人>と自称する一部の宗教指導者に限られず、他者に<罪人>のレッテルを貼り、…事実上自らを<義人>の側に組する者と見なす人びと（民衆を含む）」

としている（p.146）。

その上で、イエスの考えでは、「人は自らを<よい者>と

## 受難曲と美術作品

することはできない。〈義人〉はいないのである。...しかし、その人間を〈唯一よい者〉である神は生かしている」...「いかなる者も、生かされて在る〈いのち〉なのだ」(p.148)。「神によって生かされて在るいのちが、人によって損なわれている。それは回復されねばならない」...「このためにイエスは、〈罪人〉(=被差別者)と連帯し、〈義人〉(=差別を現実化する者)に対する批判を展開したのである」(p.149)。

結論としては、イエスとキリスト教との行き違いが、こう述べられている。

「人は罪を背負った存在であるが、その人間を神は一方的に受容するのである。それは、エゴイズムとニヒリズムを超越した自己認識であり、人間の相対性と肯定についての洞察である。これが〈福音〉である。イエスも弟子たちも、パウロも他の初期キリスト教徒たちも、それを宣べ伝えようとした。ここにイエスと原始教会の本当の意味での連続性がある。しかし、やがて教会は、福音を告げ知らせるだけでなく、その受容(信仰)を救済の条件にしてしまう。それはもはや〈良き‘知らせ’〉ではない」(p.160)。

近ごろ、私は〈神の片思い〉という表現をしている。旧約聖書は、神が人間のために整え、それを人間が裏切るという話に満ちている。新約聖書では、神の心を体したイエスが実例によってその心を教えるが、それを受け入れて従ったかに見えた弟子たちが、イエスの死後、福音書を書き、イエスをキリストとして排他的に崇める教会をつくってしまった。そうすることによって、決定的に神意を裏切るのである。〈神の片思い〉はまだまだ続き、20世紀、21世紀と漸増的に人間虐殺と自然破壊がふえてゆく。

私はまず、具体的に「人を殺さない」集団を宗教団体と規定し、かれらの間で、登り口は違って、目指す「頂き」(真理)は同じという前提から話し合いを始めていってもらいたいと思う。これは、例のカントの〈世界共和国〉と同様、出来ても出来なくても、緊急に始めなければならないものだと思っている。

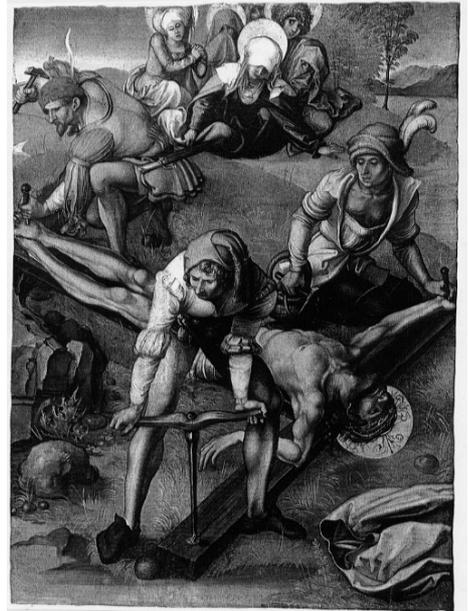
関東神学ゼミナール  
〒169-0051 新宿区西早稲田  
2-9-11  
フェニックス西早稲田 402号  
西早稲田集会所  
fad@iya-ten.net

白木 博也(画家・後援会員)

### ・十字架につけられるキリスト

作者名不詳(16世紀ドイツの画家)  
ドレスデン国立絵画館

キリストが、いかにして十字架につけられたか、その過程を示すように克明に描かれている。上方は聖母マリアの一行。



### ・十字架建立

ルーベンス(ピーター=ポール)(1577-1640)  
アントワープ聖堂 祭壇画

兵士たちが綱を引いて、キリストの釘付けされた十字架を立ち上げて行く。この形は、ルネサンス以来定着した図像である。



## 《マタイ》合唱、100名に迫る!!

ただし、テノール・バスは もっと<sup>2</sup>

秋になりました。《マタイ受難曲》の合唱練習は、ひたすらつづきます。

練習日ごとに入団者や見学の方が見えて、合唱参加予定者は、ついに100名に迫る勢いになりました。9月末現在、ソプラノ31名、アルト39名、テノール8名、バス16名の合計94名の方が練習に参加していらっしゃいます。

声部のバランス上、アルトでは新規申込みの方(以前にご登録済みの方以外)には、待機をお願いせざるを得ない状況です。こんなことは創立以来はじめてのことです。《マタイ》作品の人気と、日本語演奏への興味でしょうか。

テノールとバスは、あいかわらず不足気味です。参加予定の諸氏は、お早目の合流をお待ちしています。男声が増えれば、待機中のアルトの方々も参加できますので...

あッ!

という間に本番です。10月からは、次の方針で練習が進められます。

1) 3曲の大合唱(Nr.1, Nr.29, Nr.68)は可能な限り、毎回さらう。2) その他の合唱曲については、全体を数曲から10曲前後の6つのブロックに分割して、週ごとに順番に取り上げてゆく。3) 土・月を1単位として、両会場とも同じ内容の練習をする。

今後2月末までの練習機会は20週ですので、各ブロックの曲には、3回から4回出会うことができます。3回~4回も練習することができます。2回サボると、1回か2回しか練習することができません。大変ですので風邪をひかないようにしましょう。

### 9月新入団員

#### <ソプラノ>

石田 朝子さん(元団員)

平岡 ジャウさん(朝日新聞8.18記事を見て)

#### <アルト>

池田 正子さん(朝日新聞8.18記事を見て)

大竹 文子さん(同上)

神 由喜江さん(同上)

吉川 直子さん(同上)

#### <バス>

柳元 宏史さん(団員の紹介)

#### <児童合唱・世田谷会場9月入団>

竹内 潤平さん(小1) 土生 花楓さん(小2)

土生 野乃花さん(5歳) 林 真実さん(小4)

## 児童合唱

### 中野・更生教会での練習も開始

団員の室田 悟・千晶さんご夫妻のお子様方を中心に、中野会場(更生教会)での練習も始まりました。教会の全面的なご協力をいただき、教会学校の時間をさいてご指導くださるそうです(牧師先生、教師のみなさん、ありがとうございます)。

通常の練習指導は、室田さんご夫妻と教会学校教師の方々が担当し、11月26日(日)には、光野孝子先生が特別指導に出かけてくださいます(午後1時~1時45分)。この日は大村先生も同行します。

#### 更生教会での児童合唱練習 参加概要

[練習日] 日曜日(毎週) 午前10時~10時20分

[会場] 日本キリスト教団「更生教会」

中野区若宮2-1-15、電話03-3330-2054

西武新宿線「都立家政」駅下車徒歩10分、JR中央線「高円寺」駅下車徒歩20分

[費用](近日中に決定します)

[お問合せ・申込み] 室田(Mail: muroda@eos.ocn.ne.jp)

または 事務局まで。

#### <児童合唱・更生教会での参加者(9月末現在)>

林 菜さん(5歳) 三井 来人さん(小4)

三井 直希さん(小1) 室田 悠介さん(小5)

室田 真由さん(5歳)

## 《マタイ受難曲》チケット販売開始

事務局では、9月よりチケットの販売を開始しました。また外部では、10月6日(金)より、全国のチケットぴあ、および杉並公会堂窓口にて発売となります。

発売チケット数は、会場収容量(1190席)限りですので、お早めにお申し込みください。

なお、後援会員・団友の皆さまへは、11月中にご案内状をお送りし、その際、招待券ご送付の要・不要をお尋ねいたします。今回は、空き席を減らし、なるべく多くのお客さまにお聴きいただけるよう準備しております。ご協力よろしくお願ひいたします。

#### 第100回定期演奏会 創立45周年記念公演

・日時: 2007年3月21日(水・祝日)

午後5時開演(8時40分終演予定)

・会場: 杉並公会堂

(JR中央線・地下鉄丸ノ内線「荻窪」下車)

・入場料: 全席自由席3,500円(当日4,000円)